更生保護婦人会だより

平成5年12月7日発行
第32号

西川笠更婦会長　土方亀久世

毎日めくるカレンダーも薄くなり、今年もあとわずかとなってきました。これまでの諸活動も皆様の御協力の下に行なわれて来ましたこと感謝いたします。

・月七日　保護司と合同研修会　三十名
（天東町北公民館）

・十月十九日　西部地区ブロック研修会　六名
（浜松市文化センター）

・十月三十一日　保護司合同慰問　十六名
（松本刑務所）

・十月二十五日　保護司大会
更婦受賞一名、参列二名
（沼津市文化センター）

右研修会に参加した方々は、更婦の役割と存在価値を深められたことと思います。

西部ブロック研修会では、テーマに基いた中から分散会が行われました。目立ない更婦活動のPR、ミニ集会について、活動資金集め、等について話し合いがなされました。どんな場所、どんな会合でも更婦会員であることを忘れないように、無理なく、地域にあったかたちで、身近な集りの中から活動の輪が広がっていられたらすばらしいと思いました。皆様のお智恵と御協力をお願い致します。

〝思いの芽をみんなで育もう地域の眼〟

静岡県
山梨県更生保護婦人会交流会に参加して

天東　鈴木喜久

山雨の降りしきる中をバスにゆられて、九月二日山梨県甲府保護観察所に向かいました。山梨県婦人会長様より、現在二五名の会員で会員が協力的で良かったものとして、十五年、毎の特色を活かして活動に励んでいらっしゃるお話を若くぴしぴしとしてゆられました。

・甲府保護観察所は、全国初の女性所長さんでとても
・各地区で、ミニ集会が盛に行われ、モデル地区の発表がありました。
・子育ての様子や、近頃の青少年の生活の実態が述べ、これからは「思いやり」と育み」の心で温かく見守ることが必要だと意見がもたれ、活動を地域の人に理解していただくことができ、会員との貴重な出会いがあり、収穫大きかったようです。
・母の鈴の歌、発祥地は山梨県、坂の地で目が見えなくなった人が、鈴をつくっては皆の功徳にたてばということでは、母の歌が出来鈴の音を聞いて再犯しないようにとの願いから、更婦の人が鈴を作って出獄する人に渡っています。

〝防ごう、非行。助けよう、立ちなおり〟をスローガンに明るい社会にと願い活動しゆられる様子に頭がさがりました。

これから更婦会員として地域、社会の非行防止、青少年の健全育成にミニ集会を取り入れて、明るい社会をめざしてがんばっていきたいと思います。

松本刑務所慰問に参加して（11/27～11/28）

大須賀　鈴木美登里

遠くに北アルプスの雪の峰々を迎え見、すぐ近くの畑にはりんごがたわわに実っている長野路をバスにゆられ、保護司会の皆様と合同の施設慰問に参加させていただきました。

少年刑務所というのは、微役、又は禁固の言い渡しを受けた少年（最高二十六才まで）を収容して、社会生活に必要な訓練や指導を行っているところだそうです。

松本少年刑務所は五年の歴史があり、現在三百名余の受刑者が収容されているそうです。特に他の施設には例を見ない、行刑施設内の中学校と高校通信制課程が置かれ、全国から義務教育を終えていない受刑者や高校卒業希望の受刑者が集まって教育を受けているとのことでした。施設内見学の時自殺も見られるような受刑者が学生服を着て授業に臨んでいる姿も見受けました。

地元の方々の温かいご支援もあるそうです。所長さんはじめ所員の皆さん等の期待に応え、一日もはやく若い受刑者の皆さんが出所され、これからの長い人生を悔いのないものにされていくよう願って止みません。

北海道南部地震災害地へ県更婦から義援金を寄送いたしました、ところ災害地より感謝の言葉をいただいたとのこと。県連盟伊藤会長様よりお礼がありました。のべ伝えいたします。ありがとうございました。

被災地の方々が一日も早く、安心して生活できる日の来ることを祈りしたいと思います。

更生保護婦人会だより

平成6年9月14日発行
第33号

西笠更婦会長　土方亀久世

猛暑だった夏も終り、朝晩はすっかり秋らしくなりました。会員の皆様如何お過しでしょうか。日頃各地区事業におきましては積極的なご参加を願っていることと信じ感謝しております。

組織は力なり」といいます。西小室更婦も三年目の壁を築きました。一代の会長様のお願がなつかしく思い出されると共に、新たな責任感じます。

発足時点の特色がそう地区にあらわれると

観察社長様のお話を伺いました。

なぜ、なぜを重ねて新しきを知り、自己の研鑽に務めながら皆さんで社会の浄化活動に励んでまいりましょう。社明月間のご協力ありがとうございました。

各地区の活動

掛川市
・駿府学園慰問
・やさしい道路づくりキャンペーンへ参加
（警察主催）

大須賀町
・静岡地裁裁判傍聴
・講演会、生活相談所、社会奉仕総務部長
・青少年健全育成フェスティバルに参加

大東町
・町内更婦会員の集い（研修）
講演：：清水克乙保護司会長
・講演会：牧野務福祉課長

非行少年に関して思うこと

掛保護司　石野文子

戦後半世紀が過ぎ、家長を柱とした日本古来の家族制度の崩壊、民主主義、男女同権、経済成長、女性の社会進出、核家族化、高齢化社会、青少年の非行化等々数々の言葉と共に世は移り平年近くが経ちました。

更生保護活動のみならず、発達が生きていく上での様々な場面において社会への関わりが如何に大切かは改めて云うまでもありません。都会ばかりでなくこの頃は昔ながらの近所づき合いが、薄れひとり、隣は何をする人ぞ で個人を重視する余り周囲に対し無関心、又自分も無関心であると同様、自分も周りから関心を持たれていないと云う孤独感ささえなされて道をあゆむ人もある現代にいろいろと考えさせられることの多いこの頃です。

今年は国際家族年です。真の家族の在るべき姿とはどういうものか、いま一度考えることも大切ではないでしょうか。

今日暮しが豊かになり立派な家を建て別に自分の部屋があり、自分の子どもに自分の電話でとても快適だと思っていたことが、実はそれは非常に危険であり子どもにとっては駄目なことであったと高校生の娘さんが非行化し相談に見えた人のお述懐である。

かつては貧しい家庭又は崩壊した家庭の子どもが非行を犯すことの多い時代から、最近では実父母率七〇％家庭経済状況は九〇％を上回る普通以上の家庭の青少年と聞く。

私が保護司に就任した十年前には成人の対象者が殆どだったのに比べ、ここ数年は青少年の対象者ばかりです。

少年は社会の鏡と云われるように、社会からの影響を強く受けていると云えましょう。

自分の生き方を変えたとしても親たるものの子どもに対する責任は忘れてはならない筈だが、親の離婚、再婚等環境の変化により、ますます人を失った子ども達の非行も無理からぬことは思いつつも未熟な子ども達の身近で厳しく関ってやるべきなのは一体誰なのか。子ども達のSOSをキャッチして本気に向き合って同じ高さで一緒に考えてやるということは大切なこととわかっていても実際にはなかなかむずかしいことです。

まして心荒んだ青年達と他人が心を通わせ更生させることの困難さをしみじみ感ずる昨今です。

私達は先づ自分の足許から今の青少年達に努力する目標、生きる目標や理想を自分の生きる姿を通して、人間の基本的なモラル、と云ったようなものを家庭の中で又仲間の中で地域の中でお互いに自分達の努力、行動を通して確認し合って行きたいものです。

中山

更生保護婦人会だより

平成6年12月10日発行
第34号

西川笠更婦会長　上方亀久世

今年もいよいよ十月に入りました。月日は実に早いものと思い知らされます。「月日の立つは早いもの」と思いながら会員の皆様の更婦活動へのご理解とご協力を厚く御礼申し上げます。また今回の十月十日第四十回静岡県更生保護大会式典に於て、西笠更婦は関東地方更生保護委員会委員長より感謝状を贈呈されました。掛川の鈴木くわ子様大須賀の村松はつ様二名には静岡観察所長感謝状が贈呈されました。皆様と共にお喜びを分かち合いたいと存じます。

◎活動報告

・九月十四日　保護司更婦合同研修会
掛川生涯学習センター　婦人
「ビデオ鑑賞」風を見た少年
分散会―非行少年立直りについて　熱心に研修
・九月二十日　西部更婦ブロック研修会（湖西市西部公民館）
「更生保護婦人会活動を一層充実発展させるためには」
「ミ集会を成功に行うにはどうしたらいいか」のテーマで寸劇を見学して
分散会　後援会報告をする
・十月二十日　麻薬、覚せい剤、シンナー乱用防止
静岡県民大会（掛川生涯学習センター）
特別講演「ガラスの部屋の少年たち」
伊藤豊次先生　役員及び有志参加
・十月十日　第四十回静岡県更生保護大会
於　袋井市中央公民館　婦人
内容は前文の通りです
・十月　保護司、更婦施設慰問
（笠松刑務所）　名参加

観察所調査連絡課長
長友先生のお話

更婦活動の充実発展をはかるための
更婦仲間の合言葉
（か）（き）（く）（け）（こ）の実践について
（か）勧誘する　（き）共感する
（く）苦楽を共にする　（け）健闘を讃える
（こ）後輩を育てる　以上更婦の道しるべ
であり、これからの課題でもあると思うのです。
革新の試射や若の人間性が問われる項
今こそ地道な更婦活動の底力が期待
されるときはないでしょう。たゆまずに
力を合せてまいりましょう。

西部研修会に参加して
掛川市　山下武

去る九月二十日湖西市で開かれた研修
会に参加させていただきました。
前夜は久しぶりの激しい風雨
見舞れ、明日の会合はどうなることかと
案じられる中、西川笠地区の二名の会長さん
から電話をいただき恐縮いたしました。
当日は嵐一過、晴天ですばらしい日和、掛川
駅で会長さん方と一緒になって会場
に向いました。湖西市長さんは、愛知
県との県境ではなく、静岡県の西の
玄関口です。と張り切りながらも、浸
水家屋の見舞と出かけられました。
遠方の会員さんのエプロンかけの日常の
ことばかりの「ミ集会」のあり方についての
寸劇を見、そのあと分散会に移
りました。「ミ集会」は、はじめて何だ言葉
義に活躍しているか所もあれば、左に倣
ずもありました。ただ注意として「問題はどん
な事でもよいが、ただうわさ話になってしまって
はいけない」と司会者から注意がありました。
ミ集会は、たしかに大切なことだと思います。
枠の中で考えてみることも大事なことだと
思います。

合同研修旅行に参加して
大須賀町　鈴木美登里

岐阜県の笠松町にある女子刑務所は義務
懲、性格の方の設計によるものだそうです
建物のあちこちに柔らかい曲線が取入れられ
優しさがただよい、刑務所らしからぬ イメージの
建物でした。収容数は三五〇名、生活場所は
鉄格子も鍵もなく、一見寮のような感じですが、
各部屋の中を見ると、全く余分な私物も飾も
なく きちんと整とんされていて、やはり
刑務所のきびしさを感じました。
所内を巡りつつ あちこちで クシーの服に
身をつつみ、働いている姿を見ると、どの顔も
真剣でおだやかでした。またそのかたわらで
作業を見守っている所員の方を見たとき、
なかなか大変なお仕事だなと思いました。
一日も早く社会復帰して、子どもや、
家族の待つ家に帰り、母親として、
社会人として、強い意志を持ち、責任
ある生活に戻ることを願いつつ帰って参り
ました。行程の中で訪れた八幡城は紅葉が
真っさかりで、自然の美しさに心を洗わ
れる思いでした。

更生保護婦人会だより

平成7年8月1日発行
第35号

就任のあいさつ

掛川　三浦殺子

ひたすら待たれた梅雨も明けきびしい暑さの毎日ですが、皆様如何お過ごしでしょうか。

この度、役員改選により大役を仰せつかりました。歴代会長の活動実績に深く敬意を表することもに、三十年来にわたる西小笠更婦の歴史を汚すことのないよう、微力ですが務めて参りたいと存じます。どうぞよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

さて、新年度発足し早くも四ヶ月が経ちました。年間事業計画に基づき既に七月「社会を明るくする運動」には、保護司会追従のもとに広報活動に参加し、又、地区懇談会等は、各市町とも実施の運びとなりました。尚西部ブロック研修会、保護司合同研修会が開催されます。一人でも多くの方に参加して頂き、会員相互の親睦を深め、情報交換を機に地域の浄化活動にと結びつく事が出来ましたら幸と思います。皆様の御協力、御活躍を御期待申し上げます。

これからの予定

一、保護司合同研修会　9/21(木)掛川市生涯学習センター
一、西部ブロック研修会　10/9(木)浜松市福祉文化会館
一、県保護大会　9/10(金)清水市
一、保護司合同視察研修　9/13(月)～14(火)長野刑務所

去って行く中年のお母さん
貧しい心にだけはならないで
もう少しゆとりともって……

等々自分なりに直感しながら、様々な受け止め方に接する事ができました。どんな時にでも相手の立場に立って物事を考えることができること、と同時に常に寛大な心の持主であり、たいな、と痛感しました。善良で純粋な子ども達の心に犯罪とそう悪魔がしのびこまないように、皆さんで暖かく見守ってあげようではありませんか。明るい地域づくりに、更婦の一員として微力ながら頑張らなくては……とファイトを燃した一日でした。

社明活動に参加して

大東町　安藤いと子

社明運動月間に先がけ、七月二日(日)の午後三時より、ピアショッピングセンターにて約一時間保護司さんの御指導のもと、啓発活動に参加させていただきました。

買い物を済ませてお出でになるお客様に「こんにちわ」の挨拶を交しながら、「社会を明るくする運動です」「ぜひ読んで下さい」と呼びかけながら渡していきました。「アッどうもすいません」と笑顔で明るく受け答えしてくれるお母さん、対話のある家庭だな「大変ですね、ご苦労様です」とねぎらいの言葉をかけてくれる若いおじいちゃん、おばあちゃん、思いやりのある家庭だなって「けっこうですよ」と横を向いたまま「うるさいな」とそっぽんばかりに足早やに過ぎ

雑感

大須賀町　鈴木美登里

この三ヶ月余り、新聞、テレビのニュースの多くは、余りにも私達の今までの常識をこえた事柄ばかりで驚きと共に怒りを覚えます。不幸にもいまわしい事件に巻まれた沖本人や、ご家族の悲しみ、苦しみ、怒りは如何ばかりかと本当に心が痛みます。もし今、私の身内や身近かな人が巻き込まれていたならばこんな冷静な気持ちではいられないと思います。

あの事件に関与している幹部若者の多くは、之迄な家庭に育ち頭も良く一流大学で再内的な知識を身につけた人達と聞いています。その若者がこのような判断が出来ないのか、これも理解に苦しみます。戦後五十年、より良いものを追い続けてきた中で教育や、物の考え方、価値基準の変化、人間関係の薄くぎ等々のはざまで生まれた欠陥が原因だろうか。たとえ平和で物があふれ、便利な世の中になっても昔から生命や宇宙の大原則が変わらないように、人が大人になる過程には、その年令に応じた躾や教育があり、それは決しておろそかにしてはならないと思います。子供の我がままや、親の見栄、都合にたぶらされて大事な我が子の教育を誤ることのない様に、又悪いことの責任を他に転嫁することのない様、自省しながら大人も常に学ぶことを忘れてはならないと思います。世の中の事を他人事として見過ごすことなく自分を振り返り、今私に出来る事は何かを考えて生活して行きたいと思います。

少年の家を訪ねて

掛川　石川ツヤ

うっとうしい梅雨の一日、更婦の施設訪問に参加させて頂きました。九時市役所を出発、一路勧善会へと走りました。近藤主幹の日常生活の説明を受け、金原明善が全国に先がけて静岡の常光院境内に設立、刑期を終えても引き受け人のない者を保護善導し、再犯の防止に努められ今日に到るとの事、所在地は豊田の補導上適地をおめて西三移転され現在地に竣工落成され見た。食堂、娯楽室等、清潔整頓が守られ、掃除等行届いており好感が持てました。時に食事は少い費用での献立、調理員の労苦が偲ばれました。勧善会を後に食事を済ませ、少年の家へと向う。佐々木主任から施設の沿革、概要があり、入居者の部屋等を巡回する、若者の部屋らしく着る物、雑誌等、なるどけなさが残っている面も伺われる、心の中の優かなスキが非行や、犯罪を招き結果として自分自身を傷つけてしまう事に、周囲からの温かい思いやりと適切な助言は何より大切であると思いました。

佐々木夫妻の熱意あるボランティア精神には頭の下る思いでした。非行に陥った少年達の良い友達となり日々の悩みや喜びを共にしたり、相談にのったりナニ子達が自らえち直る様、側面から指導する主任の労苦が察せられました。入居者の一日も早く自立出来る様祈って止みません。

両親さまで夏草が茂り今後はこの草取りのお手伝いをしようと、少年の家を後にしました。